



ちょうふピースメッセンジャー 2021

次代を担う子どもたちを市民の代表“ピースメッセンジャー”
として任命し、オンラインを活用した青少年ピースフォーラム
への参加や、市近隣の戦跡を巡るフィールドワークなどを通じて、
戦争の悲惨さや平和の大切さについて肌で学ぶ機会を設け、
その成果を広く市民へ還元することを目指します。

令和3年度調布市平和祈念事業 ちょうふピースメッセンジャー2021 報告書

調布市 CHOFU TOKYO



豊かな
芸術文化・スポーツ活動を
育むまちづくり宣言

戦争とは自分たちから
遠く離れた世界の話だと思っていた。
ピースメッセンジャーの活動には
その考えを覆すようなたくさんの学びがあった。
—ピースメッセンジャー報告会より—



調布市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

はじめに

調布市は、「調布市非核平和都市宣言」及び「調布市国際交流平和都市宣言」の理念のもと、毎年様々な平和祈念事業を実施しています。

令和3年度は、9人の中学生を市民の代表“ピースメッセンジャー”として任命し、戦争や平和についての学びの成果を広く市民へ還元することを目指した取組を実施しました。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、長崎への派遣は断念しましたが、調布市近隣の戦跡を巡るフィールドワーク、被爆者の手記を題材とした朗読発表、オンラインで実施された「青少年ピースフォーラム」における全国の青少年たちとの交流などを通じて、戦争・平和に関する学びを深めました。

この報告書をご覧いただき、ピースメッセンジャーが学んだことが一人でも多くの方に伝わるとともに、平和の尊さを改めて感じ、考えるきっかけとしていただければ幸いです。

令和4年3月

調 布 市

目次

はじめに	
ピースメッセンジャーの役割	1
ちょうふピースメッセンジャー2021 紹介	2

第1部 ピースメッセンジャーの感想文

3

第2部 活動報告

ちょうふピースメッセンジャー2021 活動スケジュール	14
Part1 【学び】	
任命式	16
第1回事前学習会	17
第2回事前学習会（フィールドワーク）	18
朗読練習	20
調布市平和映画・朗読会	21
FC 東京石川直宏クラブコミュニケーターとの意見交換会	22
青少年ピースフォーラム	23
事後学習会	24
Part2 【発信】	
市特別職への報告会	26
報告会の内容	27
平和祈念事業	
調布平和の祭典	33
黙とうの呼びかけ	34
戦争体験映像記録	34
原爆展	35
ちょうふピースメッセンジャー2021 メッセージボード巡回展「つながる」...	36

第3部 資料

折り鶴プロジェクト	40
親子で折り鶴アート	40
平和首長会議	41
日本非核宣言自治体協議会	42
平和都市宣言（調布市非核平和都市宣言／調布市国際交流平和都市宣言）	43
調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト	44
その他平和祈念事業の紹介	45
おわりに	46

ピースメッセンジャーの役割

ピースメッセンジャーには、以下の役割があります。

1 市民の代表として調布市長から任命を受け、戦争の悲惨さや平和の大切さについて意欲的に学ぶ

ピースメッセンジャーは、6月27日（日）の任命式から、9月23日（木）の事後学習会まで、多くのことを経験し、学びました。

2 活動を通して学んだことを発信する

活動を通して学んだことや感じたことをまとめたメッセージボードを作成するとともに、各種平和祈念事業に参加し、活動の報告や平和への想いを発表し、来場者との意見交換を行いました。作成した成果物や活動の様子をまとめたパネルは、市内公共施設での「メッセージボード巡回展」を通して多くの市民の方にご覧いただきました。

— イベントでの展示 —

原爆展・調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト2021作品展
調布平和の祭典（来場者との意見交換）

— 報告会 —

市特別職への報告会

— メッセージボード巡回展「つながる」 —

文化会館たづくり 11階みんなの広場、1階ロビー
市民活動支援センター
青少年ステーションCAPS
西部公民館
東部公民館
北部公民館
郷土博物館

ちょうふピースメッセンジャー2021 紹介

市内在住又は在学の中学生9人を“ちょうふピースメッセンジャー2021”として任命しました。

活動後は、学んだことを市民の方へ発信しました。



阿部 咲生奈	(あべ さきな)	佼成学園女子中学校(3年)
天方 理実	(あまかた りみ)	調布市立調布中学校(2年)
岩田 叶	(いわた かの)	ドルトン東京学園中等部(1年)
岡 ななみ	(おか ななみ)	桐朋女子中学校(1年)
清水 遼大	(しみず りょうた)	調布市立第五中学校(2年)
太期 結子	(だいが ゆうこ)	晃華学園中学校(3年)
徳永 曜	(とくなが ひかり)	調布市立第三中学校(2年)
邊母木 桃子	(へばき ももこ)	調布市立第七中学校(1年)
村上 葉	(むらかみ よう)	晃華学園中学校(3年)

五十音順

第 Ⅰ 部

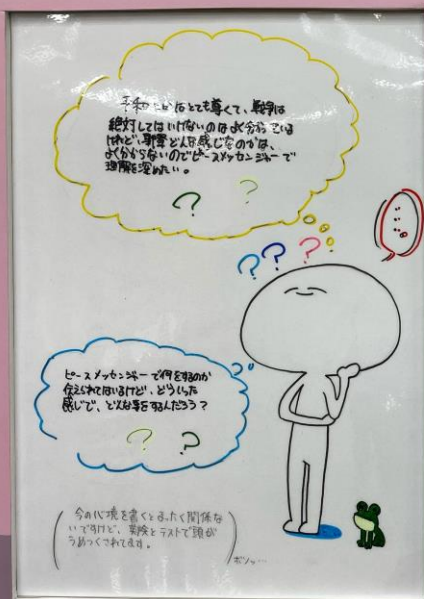
ピースメッセンジャーの 感想文

ピースメッセンジャー一人ひとりの「感想文」と活動前・活動後の平和への想いをまとめた「メッセージボード」を紹介します。



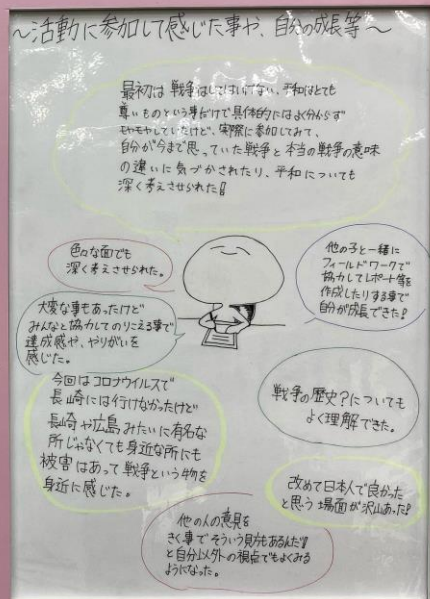
ちょうふピースメッセンジャー

調
布



ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和3年度
調布市平和祈念事業



ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

長
崎

長崎平和派遣に参加して

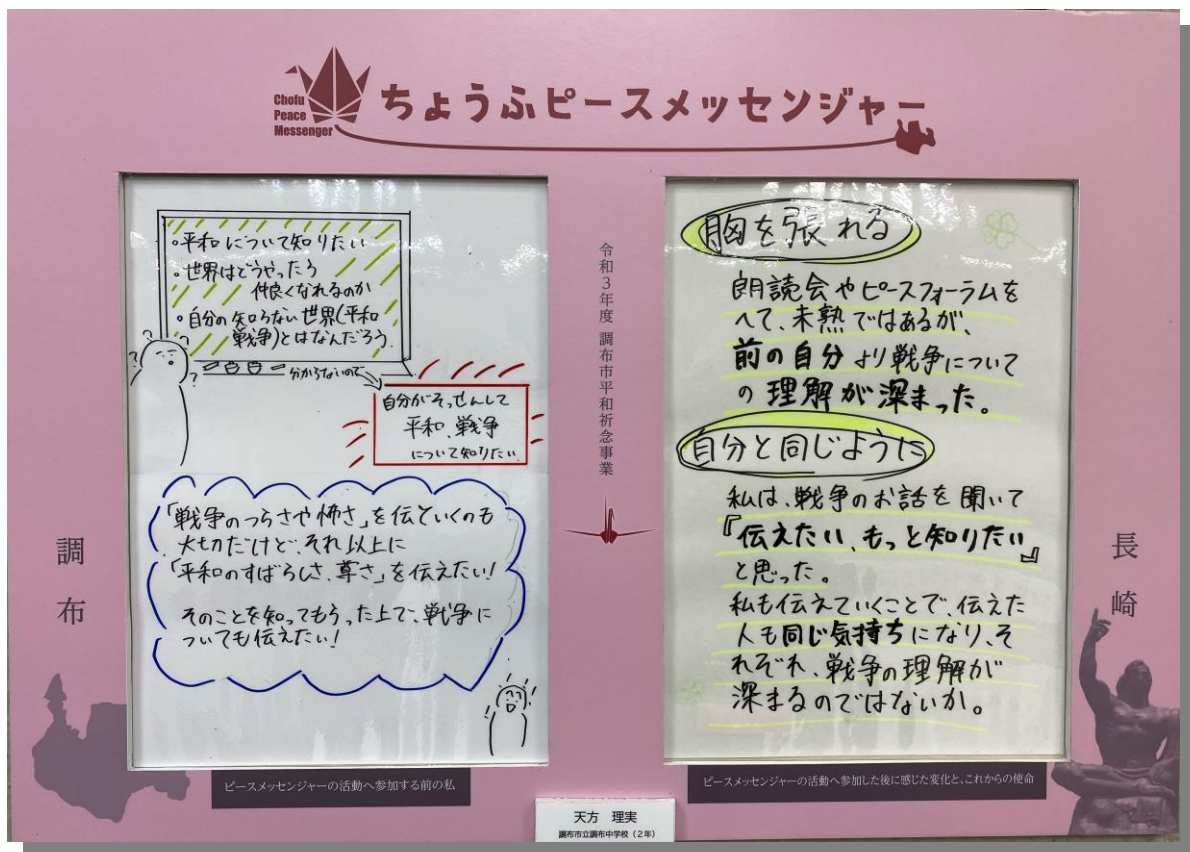
阿部 咲生奈

佼成学園女子中学校（3年）

私は、これまで学校等で戦争や原爆について学んだことに加え、このピースメッセンジャーに参加して、被爆者の方のお話を聞いたり、戦争跡地を見学する中で、実際はどれだけ大変な様子だったのか知ることができ、また戦争はなぜ起きたのかと深く考えさせられました。コロナウイルスの影響で残念ながら長崎には行けませんでした。広島や長崎といった有名な原爆投下地ではなくても、調布飛行場周辺の身近な地域に戦争の傷跡が残っていることを知り、この地域での戦争の被害や戦時下での状況を学ぶことができました。これはピースメッセンジャーでの活動に参加しなければ学ぶことができませんでした。改めて戦争の怖さ、そして大切な人を

失ったり、傷つけたりして、悲しみしか生まないことを痛感し、世界中の人が平和な世の中で過ごせるよう、ピースメッセンジャーとして今回の学びを伝えていきたいと思います。





ピースメッセンジャーの活動

朗読はすごく辛い話が多く、原爆は恐ろしく残酷なものであると、読み込み登場人物に近づくほど、強く思いました。会場での朗読はとても緊張しましたが終わった後の達成感の方が大きかったです。原爆の体験や戦争の辛さを、ピースメッセンジャーとして伝えるという大切な役目を、少し達成できたように思いました。フィールドワークでは、調布市には、戦跡が残されており、その歴史を伝える人がいるということを知り、歴史を脈々と伝えていく調布市に生まれたことを誇りに思いました。しかし、自分が生まれ育った街にも関わらず、戦跡があることなどを知らなかった自分を恥ずかしく思いました。

ピースフォーラムに加え、平和の祭典

でも、平和について理解を深めることができました。私は、平和について話し合い、考えを深め合った方々、貴重な話をして下さった方々の思いを、そのまま自分も伝えていけるような活動をしたいです。

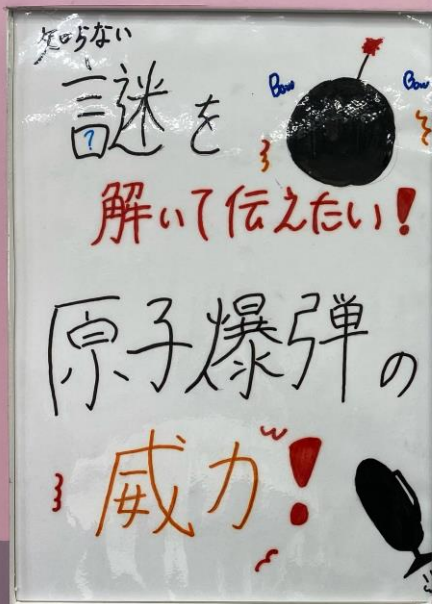


天方 理実

調布市立調布中学校(2年)



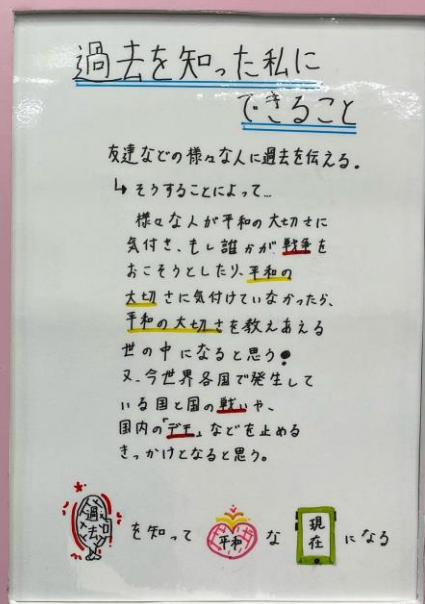
ちょうふピースメッセンジャー



調
布

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和3年度 調布市平和祈念事業



長
崎

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

岩田 叶

ドルトン東京学園中等部 (1年)

イメージの変化

岩
田
叶

ドルトン東京学園中等部(1年)

私はこの活動を通して、戦争の酷さを深く知りました。この活動を行う前は、戦争の酷さを知っていたつもりでしたが、私の知識はとても浅かったです。しかし、この活動を通して、他の人にも教えられほどの知識を、被爆者などの方から学ぶことができました。

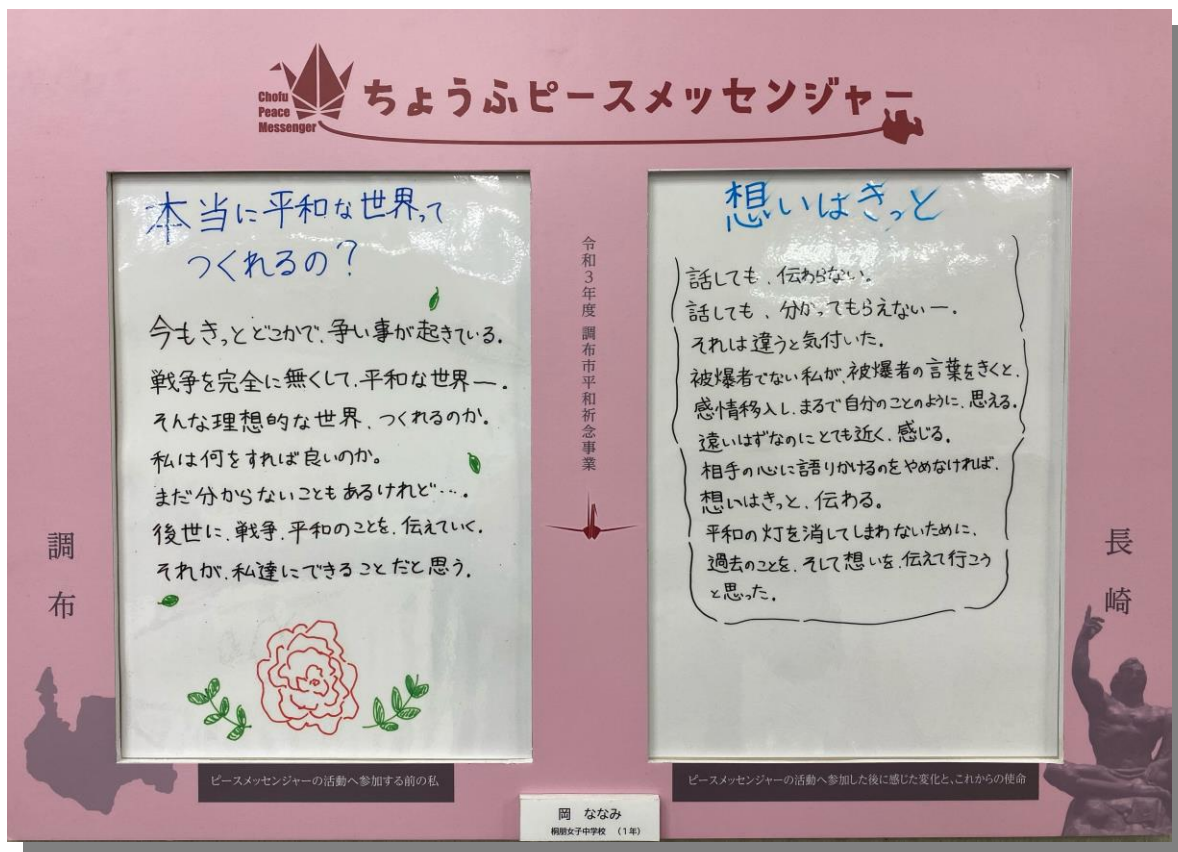
例えば、原子爆弾は太陽のような光を放ち、爆風が吹いて、とても熱い、ということです。

このお話を聞く前の原子爆弾のイメージは、雷のように少しだけ光り、風の熱が徐々に来る、というイメージでした。しかし実際はもっと酷いもの、だという事を知りました。

私は、これまでに活動してきて、私にしか感じられなかったこと、学べなかつ

たことを新しい世代の人に伝えていきたいな、と思います。





小さな想いを多くの人へ

平和のためにできることは何だろうか。任命式が終わり初めての事前学習会で、私は真剣に考えていた。まだ戦争や世界のことについてあまり知らない私に何ができるのか、自分に問いかけ続けたが、明確な答えを出すことはできなかった。

私は朗読会にも参加するので、家で何回も練習をしていた。何度も読んでいくうちに、登場人物の気持ちが痛いほど伝わってきた。もし自分が同じ立場だったらと思うと、いたたまれない気持ちになり、平和に対する想いがより一層強くなった。そして本番では、その強い想いが観客全員に伝わるように朗読した。この朗読会を通して、それまで抱えていた疑問の答えを自分なりに出すこ

とができた。それは、私のような若い人が平和への想いを発信することだ。この小さな想いが多くの人へ届くことを願っている。

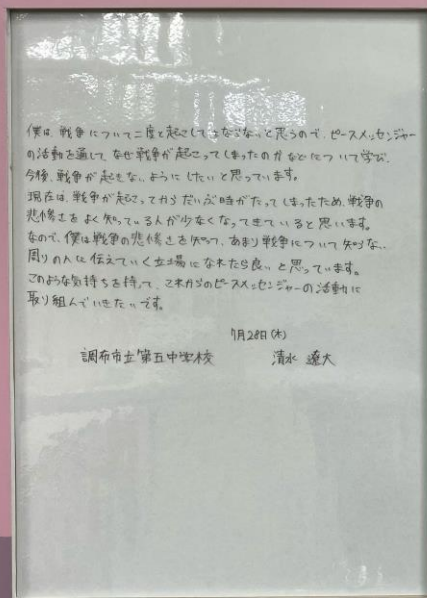


岡
ななみ

桐朋女子中学校(1年)



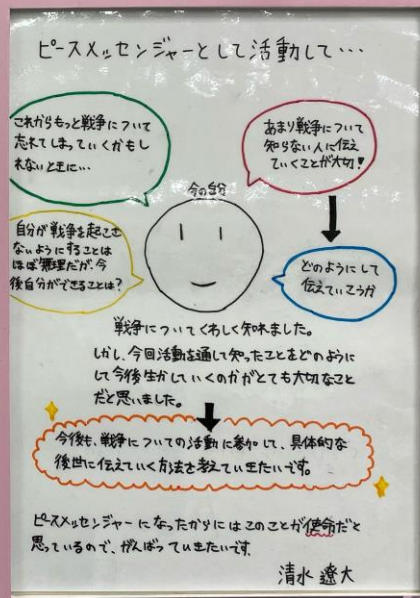
ちょうふピースメッセンジャー



7月28日 (休)
調布市立第五中学校 清水 遼大

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和3年度調布市平和祈念事業



ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

清水 遼大
調布市立第五中学校 (2年)

長崎

ピースメッセンジャーの活動を通して

清水 遼大

調布市立第五中学校(2年)

僕は、これまでの活動を通して全てとても良い経験になったと思います。

今の時代、戦争についてくわしく知っている人が少ないなかで、貴重な体験ができたと思いました。

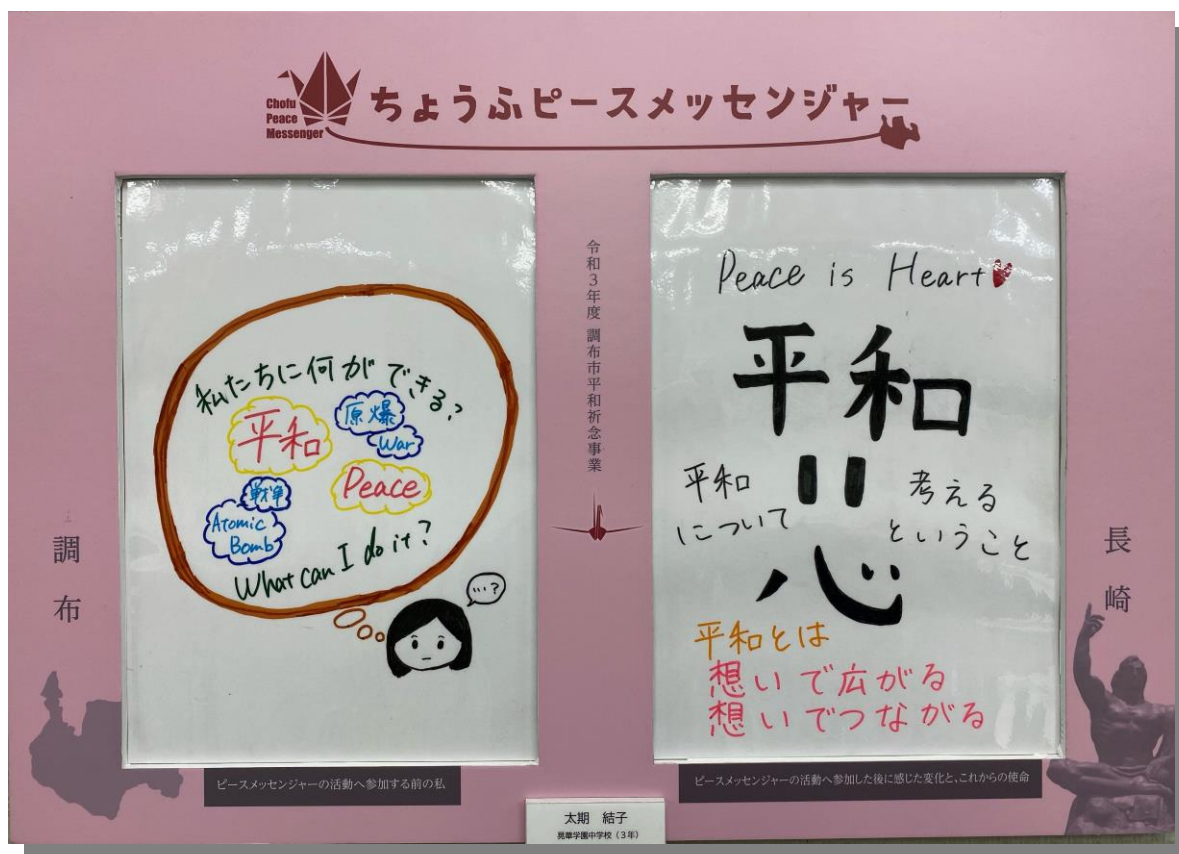
フィールドワークでは、戦争の跡を見学して、戦争についてくわしく知ることができました。僕は、思っていたより戦争の跡が今でもいろいろ残っていて、そこから学べることがあると気づかされました。

青少年ピースフォーラムでは、全国の人と戦争のことについて交流し、被爆者の方からお話を聞くことができ、とても勉強になりました。

このような活動を通して、僕は学んだたくさんのことを生かして、戦争が二度

と起きないようにしたいです。そのために、後世の人達に学んだことを伝える、などの今後自分ができていることをしていきたいと思いました。





ピースメッセンジャーに参加して

私はこの事業に参加して、二つのことを学んだ。

一つ目は、平和は人々の想いでできているということ。以前までの私は、平和とはもはや社会事象の一つといった風に考えていた。しかしピースフォーラム等で平和のために活動している方々の話を聞き、「平和な世の中を創りたい」という沢山の想いが集まって、「平和」な状態ができているのだと感じた。

二つ目は、自分で感じたことが一番の説得力になるということ。実際に見て、聞いて感じたことを伝えて行くことが平和のためには大切だと思うし、知識だけでは補えないものがそこにはあると感じたからだ。

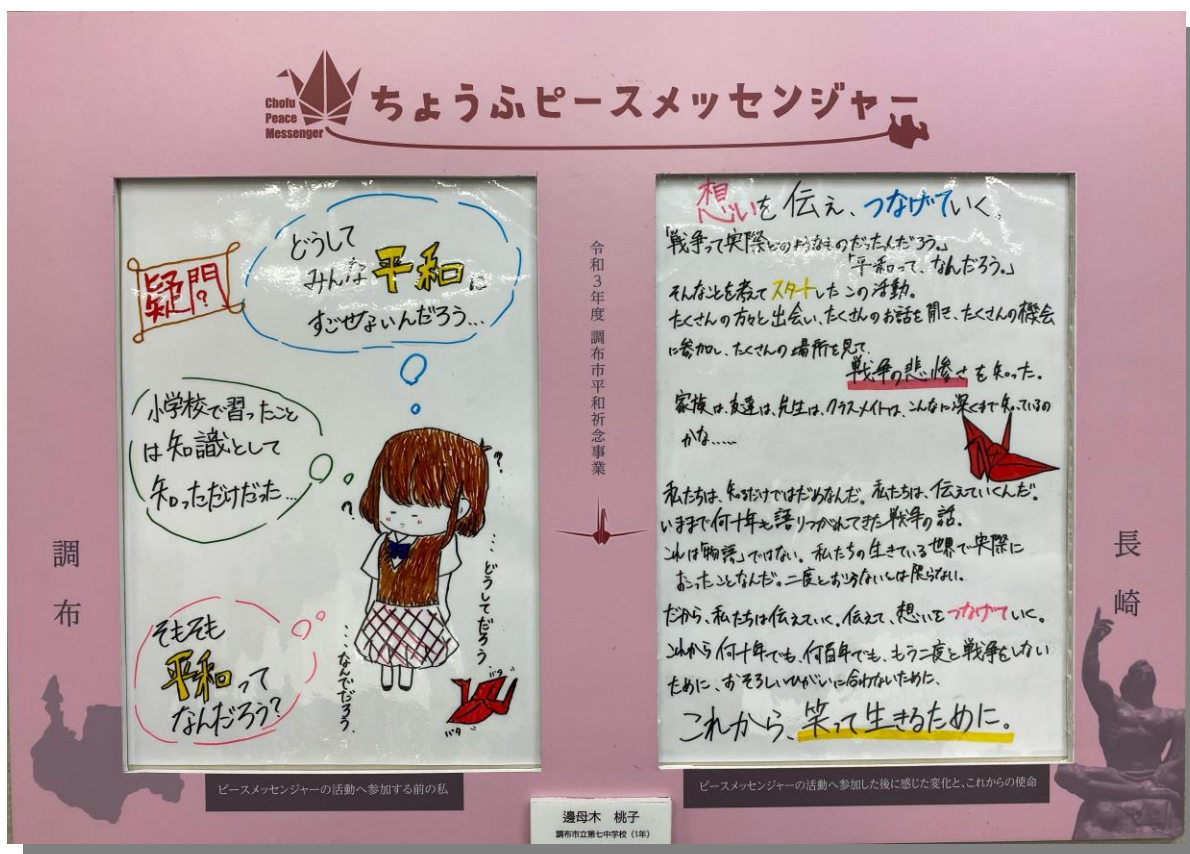
この事業で、私は未来に繋がる大き

な糧を得ることができたと思う。このような機会を用意して頂いた文化生涯学習課の皆さんに感謝申し上げたい。



太期
結子

晃華学園中学校(3年)



伝えていくこと

ピースメッセンジャーとなり数ヶ月たった。八月九日のピースフォーラムまで、平和について考え、朗読で原爆の悲惨さを知り、本当にいろいろな体験をしたと思う。

ピースメッセンジャーになる前は戦争についてもあまりよくわかっていなくて、日本の歴史の一部としか考えていなかった。けれど、いろいろな方々の講話を聞いたり、日本各地の人々と話したり、戦争遺跡をめぐったりしてより理解を深めることができた。

また、朗読会や平和の祭典の後に来場者の方々が残してくれたコメントを読み、私たちピースメッセンジャーは知ることだけが必要なことじゃない。伝えていくことが何より大事なんだ。と感じた。

この活動を行って行く中で、私は大切なことを学べたと思う。それは伝えること。残りの活動もこれを意識して過ごしていきたい。



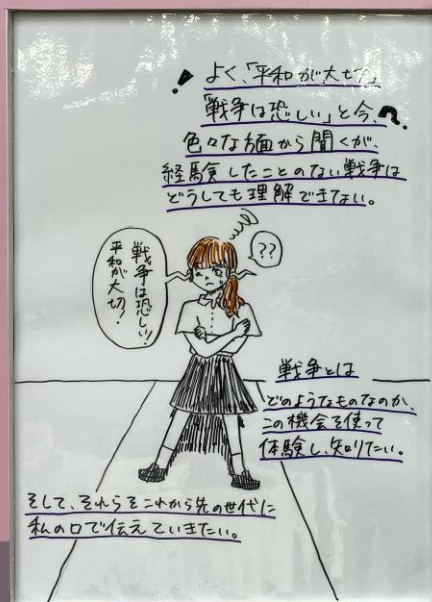
邊母木 桃子

調布市立第七中学校(1年)



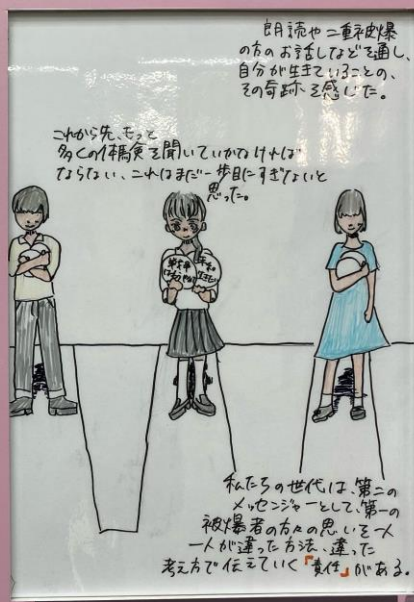
ちょうふピースメッセンジャー

調
布



ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和3年度調布市平和祈念事業



ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

長
崎

村上 葉
晃華学園中学校 (3年)

会話を通して

村上 葉

晃華学園中学校 (3年)

私はピースメッセンジャーとなり、貴重な経験を積み重ねていくことで、自分自身のなるべき姿が見えてくるようになった。それは、戦争の痛みを知る人間である。実際に戦争によって何かを失っている訳でもないのになぜその痛みが分かるのかと多くの方が疑問に思うかもしれない。しかし、人間は日々他人と言葉を交わし、自身の経験を伝えながら生きている。そのことによって、人間は互いに気持ちや事実を共有し合える。あたり前のようだが、この「会話」というツールによって、その人の気持ちをより深く理解できるようになる。私は被害者の方々、案内をして下さった方々、他のピースメッセンジャー、そして日本中の平和のために考える同世代達との

会話が私をその理想に近づけてくれたと思う。しかしまだその理想に達してはいないので、これからも会話を積み重ねていきたい。



第 2 部

活動報告

ちょうふピースメッセンジャー2021の平和
活動を2つのパートに分けて紹介します。

ピースメッセンジャーに任命されてから報
告会までの活動について紹介します。

ちやうふピースメッセンジャー 2021 活動スケジュール

令和3年

6月27日(日)	任命式・第1回 事前学習会・第1回 朗読練習
7月18日(日)	第2回 朗読練習
8月 1日(日)	第2回 事前学習会(フィールドワーク)・第3回 朗読練習
8月 3日(火)	調布市平和映画・朗読会(朗読発表)
8月 4日(水)	FC 東京石川直宏クラブコミュニケーターとの意見交換会
8月 6日(金)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(広島原爆の日)
8月 8日(日)	青少年ピースフォーラム
8月 9日(月)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(長崎原爆の日)
8月14日(土)	調布平和の祭典
8月15日(日)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(終戦記念日)
9月 5日(日)	第1回 事後学習会
9月23日(木)	第2回 事後学習会
11月 2日(火)～ 8日(月)	メッセージボード巡回展「つながる」 みんなの広場
11月10日(水)～ 21日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 市民活動支援センター
11月24日(水)～ 12月 5日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 青少年ステーション CAPS
12月12日(日)	市特別職への報告会 戦争体験映像記録DVD収録

令和4年

1月 7日(金)～ 17日(月)	メッセージボード巡回展「つながる」 たづくりロビー
1月19日(水)～ 30日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 西部公民館
2月 2日(水)～ 2月13日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 東部公民館
2月16日(水)～ 2月27日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 北部公民館
3月 9日(水)～ 15日(火)	原爆展での展示
3月10日(木)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(東京都平和の日)
3月18日(金)～ 27日(日)	メッセージボード巡回展「つながる」 郷土博物館

(令和4年3月1日現在)

Part1【学び】

市民の代表「ピースメッセンジャー」
として、様々なことを見て、聞いて
【学び】ました。

任命式

日時：令和3年6月27日（日）

午前9時30分～10時

場所：文化会館たづくり1001学習室

長友市長から“ちょうふピースメッセンジャー2021”となる9人に対し、調布市の代表としての心構えや平和学習への期待などの話とともに任命書が交付されました。

いしかわなおひろ

FC東京の石川直宏クラブコミュニケーターにもご出席いただき、ピースメッセンジャーへ激励の言葉をいただきました。



第1回事前学習会

日時：令和3年6月27日（日）

午前10時30分～正午

場所：文化会館たづくり1001学習室

NPO法人ちょうふこどもネット協力のもと、「ピースメッセンジャーとしてどうなりたいか」を考えるワークショップを行いました。画用紙に絵を描き、自分を表現する練習をしました。

また、ピースメッセンジャーとしての意気込みや平和への想いを伝えるための「メッセージボード」の作成に取り組みました。一人ひとりの考えや気持ちを、自由に表現しました。



第2回事前学習会（フィールドワーク）

日時：令和3年8月1日（日）
午前9時～正午

NPO法人ちょうふこどもネット協力のもと、2つのグループに分かれて調布市近隣にある戦跡を巡り、戦争や平和についての学びを深めました。フィールドワークで学んだことは、事後学習会でグループ毎に一枚の紙にまとめました。

高射砲陣地跡

（三鷹市大沢4-8-8 社会福祉法人楽山会椎の実子供の家内）



調布飛行場門柱

(三鷹市「大沢五丁目」バス停前)



えんたいごう

掩体壕 大沢1号 (三鷹市大沢5・6丁目 武蔵野の森公園内)



えんたいごう

掩体壕 大沢2号

(三鷹市大沢5・6丁目 武蔵野の森公園内)



朗読練習

日時：第1回 令和3年6月27日（日）

午後1時～3時

第2回 令和3年7月18日（日）

午後1時～3時

第3回 令和3年8月 1日（日）

午後1時～3時

場所：文化会館たづくり1001学習室

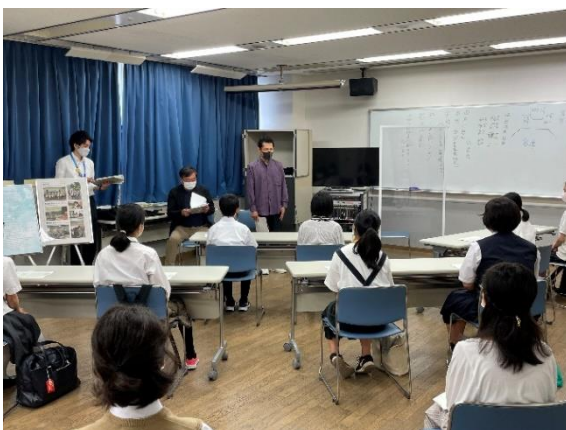
調布市平和映画・朗読会での朗読発表に向け, 有志の

まつざきけんじ

中学生とともに朗読練習を行いました。俳優の松崎謙二氏

ながいたかし

指導のもと, 長崎で被爆した医師・永井隆さんの手記の朗読に取り組みました。



調布市平和映画・朗読会

日時・場所：令和3年8月3日（火）午後3時20分～4時
文化会館たづくり映像シアター
令和3年8月4日（水）午後3時20分～4時
文化会館たづくりくすのきホール

市内の有志の中学生とともに、長崎で被爆した医師・
ながいたかし

永井隆さんの「原子雲の下に生きて」「娘よ、ここが長崎です」の朗読を発表しました。



FC東京石川直宏クラブコミュニケーター との意見交換会

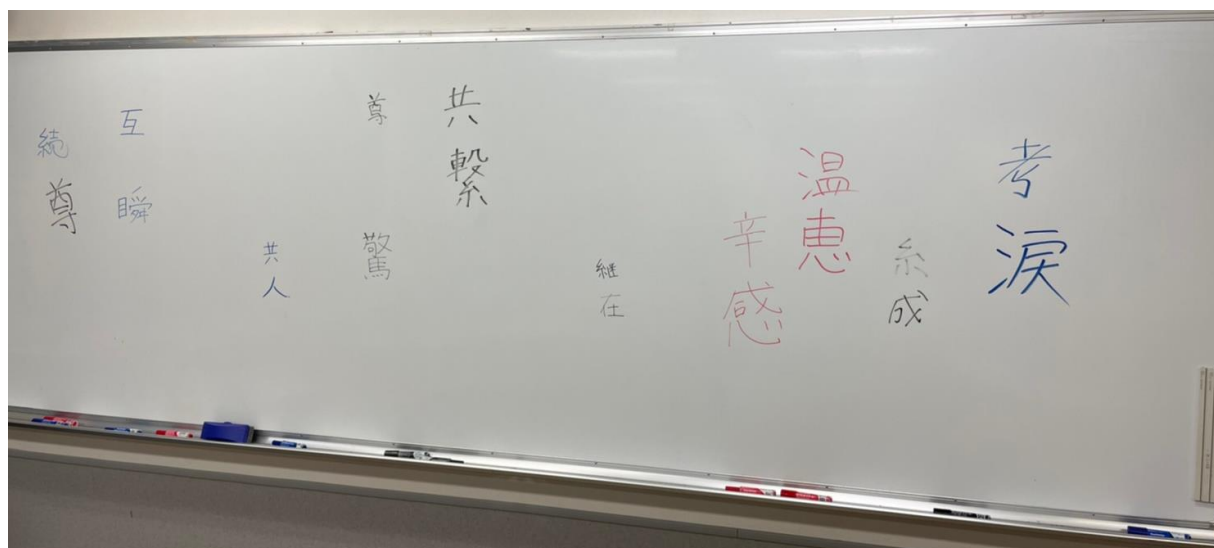
日時：令和3年8月4日（水）

午後4時30分～6時

場所：文化会館たづくり1001学習室

いしかわなおひろ

FC東京の石川直宏クラブコミュニケーターに朗読発表を鑑賞していただいた後、平和についての意見交換会を行いました。石川氏には「仲間」や「絆」などのキーワードを用いて、ご自身の経験も踏まえた平和への想いを語っていただきました。



青少年ピースフォーラム

日時・場所：令和3年8月8日（日）午後2時～6時
各自自宅（台風接近のため）
令和3年8月9日（月）午後1時30分～3時30分
市役所会議室

全国の自治体から青少年が参加し、平和について学び、交流をする青少年ピースフォーラムに参加しました。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催となりましたが、長崎の被爆の実相について学び、全国の参加者と平和について意見交換をしました。



事後学習会

日時・場所：令和3年9月 5日（日）午前10時～11時30分
オンライン（緊急事態宣言発令のため）

令和3年9月23日（木）午前10時～正午
文化会館たづくり1001学習室

ピースメッセンジャーとしてこれまで学んできたことを振り返り、これから市民の皆様へ広く発信していくためにメッセージボードの作成や意見交換などをしました。いしかわなおひろ

また、活動に協力していただいたFC東京の石川直宏クラブコミュニケーターへお礼のメッセージ動画を撮影しました。



Part2【発信】

それぞれが学んだこと感じたことを、
報告会やメッセージボードの展示等を通
して【発信】しました。

市特別職への報告会

日時:令和3年12月12日(日)

午前10時~11時

会場:文化会館たづくり1001 学習室

市長や教育長へピースメッセンジャーの活動を通して学んだことや感じたことを報告しました。

いしかわなおひろ
FC東京の石川直宏クラブコミュニケーターからはビデオメッセージをいただきました。



報告会の内容

報告会では、以下の内容を発表しました。

任命式・事前学習会

調布市立第三中学校2年の徳永曜です。

六月二十七日の任命式の日、私達のピースメッセンジャーとしての活動が始まりました。任命式では市長に任命書を頂きました。これから私がメッセンジャーとして、平和について伝えなければという思いと自分に出来るのだろうかという不安がありました。これから一緒に活動する仲間のお話を聞き、仲間がいることに少し安心したのを覚えています。その後、長友市長・石川直宏さんのお二人のお話を聞きました。お二人のお話を聞き、一つの物事に対して、様々な見方があることを知りました。日本から見る、世界から見る、大人から見る、子供から見る。見方で物事は変化します。世界の人々にとって変わらない、共通の平和のあり方ってなんだろうと考えました。この時感じたことが、今の私の考えの原点になっています。

任命式の後、事前学習会を行いました。NPO法人の方が話を進めてくださり、緊張せずに活動に参加することができました。まず初めに、自分を表現する練習をしました。紙に丸を書いて、その中にお題の表情を書いていくものです。同じお題でも、それぞれが違ったパーツでした。この活動で一人一人が違うこと、それが世界だということを改めて実感しました。

次にピースメッセンジャーとして今後どのように活動していきたいか、自分の考えや想いを記載したメッセージボードの作成を行いました。絵や文章を使い、一人一人の思いを形にしていきました。作成していく中で、改めて自分の平和や戦争への思いに向き合いました。一人一人が違うこの世界で、私に出来ることはなんだろうと考えました。そして、これからの活動の中でピースメッセンジャーとして、私だから出来る事を見つけていこう、と気持ちを新たにしました。自分に向き合ったことで不安が消え、今後の学びへの気持ちが強まりました。

この日は、私にとって、ピースメッセンジャーとして歩み始めた特別な日です。

(徳永 曜)

フィールドワークで学んだこと

調布市立第五中学校2年の清水遼大です。

フィールドワークでは、調布近郊にある戦跡を見学に行きました。僕は、はじめはそんなに多く戦跡は残っていないだろうと思っていました。しかし、思っていたより身近なところに残っていて少し驚きました。

まず、高射砲台座跡を見学しました。この高射砲台は、昔この近くにあった中島飛行機製作所や調布飛行場を爆撃から守るため、敵の飛行機を攻撃するためにあったそうです。この高射砲は鉄の破片を飛ばして飛行機を攻撃したということで、当時186名が勤務していたそうです。

次に、掩体壕も見学しました。この掩体壕は、飛行機を敵の攻撃から守るための施設です。掩体壕を作ったときは地元の人も協力して造ったそうです。頑丈そうだったけれど、思ったより小さかったです。

このフィールドワークを通して、今は平和な調布も戦時中は敵の攻撃に備えなければいけないほど、大変な状況だったということが分かりました。そして、今は平和な調布近郊も戦争のときは敵の飛行機が飛んでいたことを身近な人に伝えていきたいです。また、このような戦跡は戦争の真実を知ることが出来る大事な場所なので、これからも残していくことが大切だと思いました。戦争の真実を知ることが、平和の大切さを知るきっかけになると思います。

(清水 遼大)

朗読練習・発表

調布市立調布中学校2年の天方理実です。

朗読は、被爆者の方々目線でとても辛く、悲惨な話が多かったですが、その被爆体験をピースメッセンジャーとして、伝えられたことに、とても誇りを感じました。

松崎さんのご指導のもと、3回の練習とリハーサルのうち、本番に挑みましたが、ピースメッセンジャーとしての活動の責任や、まだ慣れないメンバーでの練習など、ずっと不安や緊張でいっぱいでした。

しかし、本番が近づくにつれ、メンバーの皆さんと読み合わせたり、分からないことを質問し合ったり、朗読会を通して、ピースメッセンジャー同士仲良くなれました。

本番では「緊張するー」と口に出し合ったりして緊張をほぐし合ったりもしました。

この朗読会は、私にとって、とても貴重な経験になりました。

そしてこの朗読会で、ピースメッセンジャーとしての私の目標である「戦争の悲惨さと、平和の大切さをつたえる」を少し達成出来たように思いました。

これからも、ピースメッセンジャーとしての目標を達成出来るように頑張ります。

(天方 理実)

青少年ピースフォーラム

晃華学園中学校3年の太期結子です。

8月8日と9日の2日間にわたってオンラインで行われたピースフォーラムでは、長崎のピースボランティアの皆さんをはじめとする沖縄や京都など日本の様々なところに住む同年代の方々と一緒に、実際に原爆を体験された被爆者の方のお話を聞いたり、長崎に残る原爆の痕跡などを見て、「平和」について考えたこと、感じたことについて意見交換を行いました。

1日目は「原爆のことを知る」ということに重点を置かれたスケジュールとなっており、被爆者の方の講話を聞いたり、爆心地から約600メートルのところに位置する山里小学校の原爆資料室や長崎に残る原爆の痕跡をボランティアの方の説明と共に中継で見学したりしました。被爆したということはとても辛い経験であり、本当は思い出したくもないはずなのに、二度と自分と同じ経験をする人が出ないように、後世に平和が保たれるようにと、涙を流しながら自身の体験を私たち戦争を知らない世代に伝えているその姿を見て、かっこいいなと思いました。もし私が被爆したとしても、辛いことは思い出したくないと記憶に蓋をして頭の中で事実上無かったことにして、後世の平和のためだとしても、涙を流してまで伝えようとは思わないだろうに、それとは真逆の行動をしている彼女は、とても素晴らしいと思います。その後の意見交換会では、5～6人のグループに分かれて自由に話をするという形でした。他のグループでは好きなアイドルや映画の話で盛り上がっていたそうですが、私たちは各地域でどのように戦争に関する教育がされているかを話しました。ある長崎から上京してきたというボランティアの方は、「長崎では8月9日は学校もあって、猫も杓子も黙祷をしてたのに、東京では黙祷してる人なんてほぼいなくてびっくりした」と話していた。私は小学校の頃に戦争を体験したという地域の方のお話を聞いたり、防空壕の跡地を見に行ったりしたこと、小学校6年生時には社会科見学で昭和館という昭和の時代にあったことを展示してある博物館に行って、戦争に関する展示を見てクラスの半分以上が号泣したことなどを話しました。地域によって教育の仕方が全然違って、面白いなと感じました。

2日目はボランティアの方による紙芝居と動画を観たあと、1日目とは違うグループに分かれて、「平和だなと感じることは何か」「平和な社会を創るためにはどうすれば良いか」という2つの問いについて意見交換をしました。私は一つ目の問いに対しては「美味しいものをお腹いっぱい食べられること」と意見を出しました。戦時中は食べ物もろくに食べられなかったというし、現代でも紛争などに巻き込まれている難民の人々は満足な食事ができていません。そんな人が未だたくさんいる中で、こうしてお腹いっぱい食べられることは幸せなことだし、平和な社会があるからこそのことだと思います。他の人は「進路を悩めること」「何も考えずにぼーっとできる時間があること」など、様々な考えがありました。2つ目の問いには「SDGsなどの取り組みに積極的に参加する」と答えました。SDGsは地球温暖化に対する持続可能な開発目標となっていますが、その中には「貧困を無くそう」や「全ての人に平和と公正を」など、「平和な社会」を作ることにつながる目標も含まれています。確かに、平和でなければ国を発展させたり、環境対策に乗り出すことはできません。SDGsに積極的に参加することで、日本だけでなく世界にまで平和の輪を広げることができると思います。そのためには、身近なことから考えてみるのが近道なのではないでしょうか。他の人の意見では「募金活動などに協力すること」「戦争という過去の失敗を後世に継承して、二度と同じことを繰り返さないようにする」などというものがありました。

私はこの2日間を通して、平和の大切さや、戦争の悲惨さ、今の生活のありがたさを改めて学びました。実際に生の声を聞くことで、より平和について考えることができたし、戦争は繰り返してはならないということを胸に刻むことができました。ここで学んだことを生かし、身近な人から多くの人に平和について発信していきたいです。

(太期 結子)

平和の祭典

桐朋女子中学校1年の岡ななみです。

平和の祭典は、市と市民団体の共催で行われたイベントです。

第一部「平和を誓う」では、たくさんの来客の方の前で、任命式・フィールドワークなどのこれまでの活動を発表しました。私はフィールドワークの発表で、私達ピースメッセンジャーのことを知らない人達にもしっかり伝わるよう、心がけました。調布市は戦争とあまり関わりがないように見えるけれど、実は掩体壕や高射砲台座など多くの遺跡があり、深い関わりがあります。私は、このことをフィールドワークで初めて知りました。もし、私と同じくこのことを聞くのは初耳だという人がいれば、身近にある戦争に関わるものに目を向けてもらえると良いなと思います。

そして私達は、調布市国際交流平和都市宣言を朗読しました。宣言文は長くはなかったけれど、そこに込められている想いはとても重く、大きなものに感じられました。それを一人一文ずつ交替して読み進めていくことは、平和への想いをバトンタッチしていくようでした。戦争経験者や大人だけではなく、私達のような若い世代でも平和への強い願望がある、ということを私達の朗読で伝えられたのではないかと思います。

こうして第一部は終わり、第二部の演奏会が始まりました。演奏曲の中には、医学博士・随筆家の永井隆さんが作詞された曲もありました。永井さんの作詞は切なく、さらに繊細なメゾソプラノで歌われることでより物悲しく感じられました。他にも、戦争にまつわる悲しい曲が続き、胸が締め付けられていました。しかし、最後の「おりづる」という曲では、再び活気あふれる会場に戻りました。合唱はできないので、「はばたけおりづる」という歌詞に合わせて手でつるを羽ばたかせる、手話で表現しました。曲が終わったとたんに会場内は大きな拍手で包まれ、あたたかい気持ちになりました。

(岡 ななみ)

事後学習会

調布市立第七中学校1年の邊母木桃子です。

事後学習会では主に、夏に調布市の中の戦争に関する遺跡を巡ったフィールドワークのまとめ作業、ピースメッセンジャーの活動を通して戦争について、平和についての考え方がどう変わったかまとめるメッセージボードの作成、などの活動を行いました。

私たちピースメッセンジャーは夏に調布市の各所をフィールドワークとして巡り、戦争時の様子について学びました。そこで、事後学習会ではそんなフィールドワークで巡った戦争遺跡を2つのグループに分かれ模造紙にまとめるという作業を行いました。フィールドワーク中に撮影した画像や地図を使って実際に見に行ったこと、お話を伺ったことなどをまとめました。一人ひとりの受け取り方や感じ方の違い、まとめ方の違いもあり同じ話を聞いたり、同じ場所に行ったにもかかわらず、2つのグループで全く違ったまとめが完成しました。作る過程の中でも同じグループのメンバーと話をしながらどんな考えを持っているのか確認することができ自分の中では共有につながる時間となれたと思います。

続いて、メッセージボードの作成についてです。私たちがピースメッセンジャーの活動を開始する際に、何も知らない状態での戦争や平和への率直な思い、考えをメッセージボードに書きました。事後学習会では夏のいろいろな学習を終え、新たにたくさんの事実を知り、そこから自分の考えを書き表しました。書き表す、という作業をしたことによって今までの学習がまとまり自分なりの答えを求められました。考え方は人それぞれで、答えは一つでないけれど、それが自分の答えだと思えました。

事後学習会ではこのように夏までに行ってきたピースメッセンジャーとしての活動、学習の振り返りを自分たちでまとめながら行いました。活動の前は大まかな事しかわからず、歴史の一部としてしか思っていなかった戦争。それは、私たちにとってとても近くにあったものだったのだと。そして、この事実は以前の私のように同世代の人々に伝わるきっかけも少なく誰かが伝えていくべきことなんだなと感じました。事後学習会を通してこのようなことに気づくことができ、新たにやらなければならないことを見つけました。

(邊母木 桃子)

平和祈念事業

調布市では、毎年様々な平和祈念事業を行っています。
ちょうふピースメッセンジャー2021も平和祈念事業へ
参加しました。
ここでは、各種事業の紹介とその様子を紹介します。

調布平和の祭典

日時：令和3年8月14日（土）
午後1時～3時

場所：グリーンホール 小ホール

幅広い世代が平和への願いを共有する機会をつくるため、
市と調布市原爆被害者の会、調布平和のつどい実行委員会
の三者共催により開催したイベントへ参加しました。

ピースメッセンジャー2019のメンバーも参加し、活動の報
告や、参加者との意見交換、非核平和都市宣言・国際交流
平和都市宣言の朗読等をしました。



黙とうの呼びかけ

8月6日（広島原爆の日）、9日（長崎原爆の日）、15日（終戦記念日）、3月10日（東京都平和の日）に戦争で亡くなった方のご冥福と、世界の恒久平和の実現を祈念するために防災行政無線で黙とうを呼びかけています。令和3年度は、ピースメッセンジャーが黙とうの呼びかけを行いました。



戦争体験映像記録

日時：令和3年12月12日（日）

午後1時～5時

場所：市役所会議室

戦争を体験した方々のお話を映像で記録する「戦争体験映像記録」の撮影を行いました。

ピースメッセンジャーは戦争体験者2名にインタビューを行い、当時のお話や自分たちで考えた質問をするなど、積極的に参加しました。



原爆展

日程：令和4年3月9日（水）～15日（火）

※調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト

2021作品展と同時開催

場所：文化会館たづくり南ギャラリー

今年度の原爆展は夏の開催から時期を変更し、調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト2021作品展と同会場で開催しました。

会場では、長崎市からお借りした被爆資料や、ピースメッセンジャー2021のメッセージボード等の展示をし、たくさんの来場者にご覧いただきました。



ちょうふピースメッセンジャー2021
メッセージボード巡回展「つながる」

ちょうふピースメッセンジャー2021の平和への想いが込められた
メッセージボードを、市内イベントや市内各施設等で順次展示しました。

令和3年11月2日(火)～8日(月)

文化会館たづくり11階 **みんなの広場**



令和3年11月10日(水)～21日(日)

市民活動支援センター



令和3年11月24日(水)～12月5日(日)

青少年ステーション CAPS



令和4年1月7日(金)～17日(月)

文化会館たづくり1階 ロビー



令和4年1月19日(水)～30日(日)

西部公民館



令和4年2月2日(水)～13日(日)

東部公民館



令和4年2月16日(水)～27日(日)

北部公民館



令和4年3月18日(金)～27日(日)

郷土博物館



第 3 部

資料

ピースメッセンジャーの取組

以外にも市では平和に向けた様々な取組を行っています。

折り鶴プロジェクト

日程：令和3年4月16日（金）～7月3日（土）

場所：市内中学校

市民の皆さんが平和への想いを込めて折った折り鶴を募集し、被爆地に献納する取組です。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、募集先を市内中学校に限定して実施し、約1万8500羽の折り鶴が集まりました。

親子で折り鶴アート

日程：令和4年1月15日（土）

場所：東部公民館 学習室

主催：東部公民館

年長から小学3年生までの親子を対象に、絵本「おりづるの旅～さだこの祈りをのせて～」の朗読を聞き、折り鶴と平和との繋がりを学びました。その後、折り鶴プロジェクトの折り鶴を使って、アート作品を作りました。

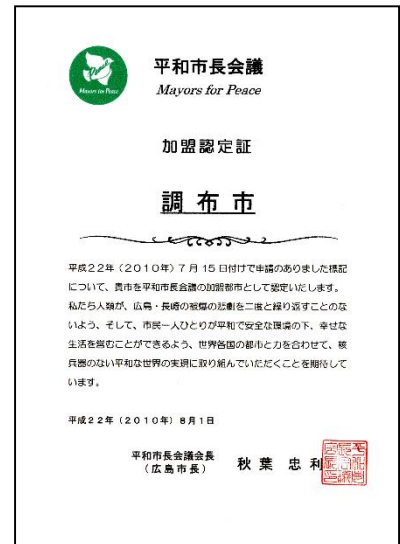
完成した作品は令和3年度原爆展で展示しました。今後、被爆地に献納する予定です。



へいわしゅちょうかいぎ 平和首長会議

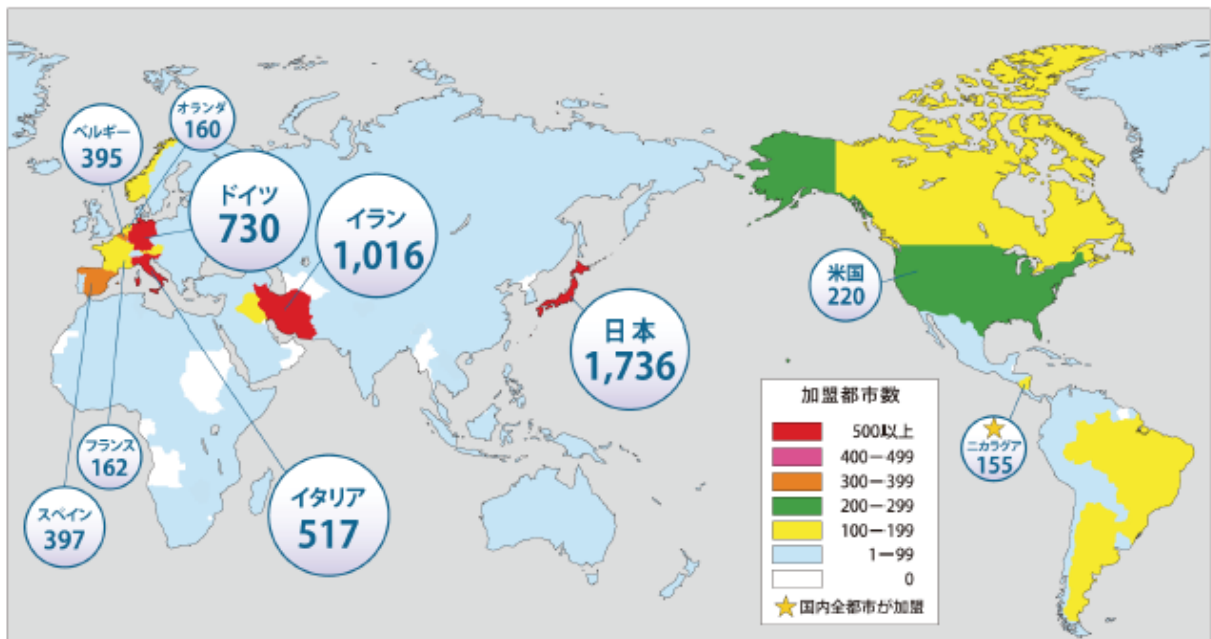
平和首長会議は、加盟都市相互の緊密な連帯を通じて核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起するとともに、人類の共存を脅かす飢餓・貧困等の諸問題の解消さらには難民問題、人権問題の解決及び環境保護のために努力し、もって世界恒久平和の実現に寄与することを目的とした国際的な組織です。

平成22年8月1日、調布市は「平和市長会議」（平成25年8月6日付けで「平和首長会議」に名称変更）に加盟しました。



加盟認定証

【平和首長会議加盟都市分布図（加盟都市数上位10か国とその都市数）】



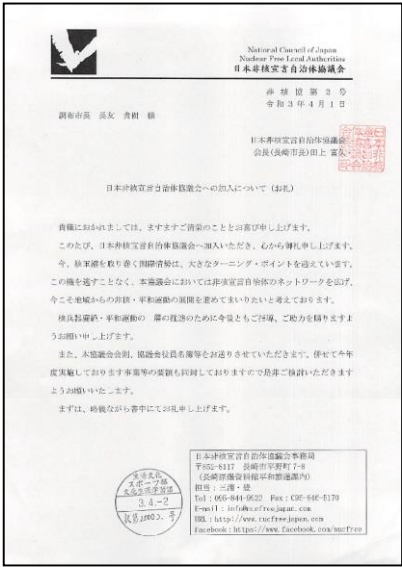
2022年2月1日現在

加盟都市数(令和4年3月1日現在)
166か国・地域 8065都市 うち国内加盟都市数1736都市
(平和首長会議ホームページから参照・抜粋)

にほんひかくせんげんじちたいきょうぎかい 日本非核宣言自治体協議会

日本非核宣言自治体協議会は、「核戦争による人類絶滅の危機から、住民一人ひとりの生命とくらしを守り、現在および将来の国民のために、世界恒久平和の実現に寄与することが自治体に課せられた重大な使命である。宣言自治体が互いに手を結びあい、この地球上から核兵器が姿を消す日まで、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界の自治体に呼びかけ、その輪を広げるために努力する」という趣旨の下、1984年に広島県府中町で設立されました。

令和3年4月1日、調布市は「日本非核宣言自治体協議会」に加入しました。



加入お礼状

	都道府県	政令指定都市	市	特別区	町	村	合計
会員自治体数	1	8	190	7	115	21	342
宣言自治体数	42	20	748	23	661	159	1,653
自治体総数	47	20	772	23	743	183	1,788

(令和3年3月末時点)

《非核宣言自治体とは》

平和を希求し、核兵器廃絶や非核三原則の遵守などを求める内容の自治体宣言や議会決議を行った自治体のこと。
1980年に英国のマンチェスター市が行った「マンチェスター市非核都市宣言」が、非核宣言運動を世界に広める契機となった。マンチェスター市が自らのまちを非核兵器地帯であると宣言し、他の自治体にも同様の宣言をするよう求めると、これに英国内の多くの自治体が賛同し、やがて宣言運動は世界に広がった。
日本でも非核宣言を行う自治体が増え、現在では1650を超える自治体が宣言を行っている。

平和都市宣言

「調布市非核平和都市宣言」「調布市国際交流平和都市宣言」

調布では、昭和58年9月27日に市議会が「調布市非核平和都市宣言」を、平成2年3月23日に市が「調布市国際交流平和都市宣言」をしています。

これらを踏まえ、市は、世界平和に向けて、様々な平和祈念事業に取り組んでいます。



市役所前庭のパネル



調布市グリーンホール壁面のパネル

市役所前庭には、この2つの宣言と調布市民憲章を記載したパネルを設置しています。

また、調布市グリーンホール壁面に掲示した平和都市宣言パネルは、「調布市国際交流平和都市宣言30周年」を記念して、令和2年3月にリニューアルしたものです。

どちらも外国の方にも読んでいただけるよう、宣言には英文を併記しています。

調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト

調布市が加盟している平和首長会議では、加盟都市における平和教育の更なる充実を図るため、全加盟都市の6歳以上15歳以下の子どもたちを対象とした“平和なまち”をテーマにした絵画コンテストを平成30年度から実施しています。

4回目となる令和3年度は世界18か国105都市から4166作品(6歳～10歳の部:2303作品、11歳～15歳の部:1863作品)の応募がありました。

市でも独自で賞を設け、市への応募作品18作品の中から受賞作品を選定しました。

全応募作品を令和4年3月9日(水)～15日(火)に文化会館たづくり南ギャラリーにて、原爆展と同時開催した「調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト2021作品展」にて展示しました。



6歳～10歳の部
調布市長賞 石橋 恵さん



その他平和祈念事業の紹介

ピース・レターちょうふ

夏の平和祈念事業の紹介及び平和に関する情報を発信するため、「ピース・レターちょうふ」を毎年7月頃に発行し、市立小・中学校の児童・生徒に配布するとともに、公共施設に配架しています。



国際交流平和基金

世界の様々な文化への理解を深め、多文化共生の地域社会づくりを推進するための国際交流事業並びに恒久平和の維持及び発展のための平和祈念事業を、円滑かつ効率的に推進する資金に充てるため、調布市国際交流平和基金を設置しています。

基金の原資は、市の予算による積立や、皆様からお寄せいただいた寄付金などです。平和祈念事業への活用事例としては、「ピース・レターちょうふ」の作成、「広島平和派遣事業」等があります。

寄附のご協力を頂ける場合は、調布市文化生涯学習課にご連絡ください。

【問い合わせ】文化生涯学習課 042-481-7139



調布市国際交流平和基金のHPはこちら

おわりに

「令和3年度ちようふピースメッセンジャー2021報告書」をご覧いただきありがとうございました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、被爆地長崎への派遣は中止せざるを得ませんでした。しかし、青少年ピースフォーラムへのオンライン参加や調布市近隣の戦跡を巡るフィールドワーク、また、朗読発表等を通し、戦争や平和について学ぶ機会を設けました。青少年ピースフォーラムで被爆者の講話等を聞いたこと、フィールドワークで自分の足で戦争の爪跡を巡ったこと、朗読を通して被爆者の方に思いを馳せたことはピースメッセンジャーにとって貴重な経験になったことと思います。

この報告書を通して、ピースメッセンジャーが学び、感じた戦争の悲惨さや平和の尊さ、また、活動を通して抱いた新たな想いが、多くの皆様の手に渡ることを願っています。

戦争を知らない世代が増加していく中、悲惨な戦争を風化させることなく、二度と戦争を繰り返さないよう、平和の尊さや命の大切さを次世代へと受け継いでいくため、今後も平和祈念事業を実施してまいります。

協力

- ・NPO法人ちようふこどもネット
- ・株式会社 タキオンジャパン

高射砲陣地跡解説

- ・社会福祉法人楽山会

応援協力

- ・FC 東京

参考資料

- ・平和首長会議ホームページ
- ・日本非核宣言自治体協議会ホームページ
- ・みたかデジタル平和資料館ホームページ

表紙について

掩体壕(えんたいごう)大沢1号

武蔵野の森公園には、「大沢1号」「大沢2号」と名付けられた掩体壕が2基残っています。

掩体壕とは、軍用機を敵の空襲から守るための格納庫で、目的は「本土決戦」に備えて、残り少なくなった貴重な飛行機を保存するためでした。

(みたかデジタル平和資料館 HP より)



刊行物番号
2021—255

令和 3 年度調布市平和祈念事業
ちょうふピースメッセンジャー 2021 報 告 書

発行日：令和 4 年3月
発 行：調 布 市
編 集：生活文化スポーツ部文化生涯学習課
〒182-8511 調布市小島町2-35-1
電 話：042-481-7139(直通)
FAX：042-481-6881
E-mail：bunsin@w2.city.chofu.tokyo.jp
